

[要約] 沖縄県における 1977－2015 年間のハブ類咬症の症状  
ならびに治療の様式 5 一咬症発生状況を含む  
各項目内の加害ヘビのサイズ構成

盛根信也・西村昌彦\*・泉水由美子・糸数清正

[Summary] Symptoms and Treatments at the Bites of Viperid Snakes in Okinawa  
Prefecture from 1977 to 2015 (5) — Snake Size Compositions in  
Each Element Including on Bite Situations

Nobuya MORINE, Masahiko NISHIMURA\*, Yumiko IZUMI and Kiyomasa ITOKAZU

全文掲載, All content : <http://www.pref.okinawa.jp/site/hoken/eiken/syoho/syoho51-55.htm>

Key words: ハブ, サキシマハブ, ヒメハブ, 咬症, ヘビサイズ, 受傷状況, 症状, 治療, 沖縄県, Viperid snake, *Protobothrops*, *Ovophis*, Bite, Snake size, Situation, Symptom, Treatment, Okinawa Prefecture

[要約]

沖縄県における 1977－2015 年のハブ類咬症資料のうち、加害ヘビのサイズの情報が多かった 1980－2002 年の資料を用いて、ハブ類 3 種それぞれの大・中・小のサイズ別に、咬症の発生状況ならびに受傷後の症状・治療などの各項目について件数を集計した。材料としたサイズの情報を有した件数は、ハブ 942, サキシマハブ 393, ヒメハブ 200 であった。サイズ構成の比較は原則として、小と中・大、または大と小・中との間において、各細目（群）の該当件数と非該当またはそれ以外の細目（群）の件数（不明を除く）を対比させて行った。以下に、複数種で共通に認められたサイズ頻度の傾向の主なものを記す。

高かった。小の頻度が治療期間 7 日以上で低かった。

咬症の発生状況については、集計の大部分を受傷箇所全部位を資料の対象とした。市町村や季節・時刻は、空間・時間の連続性を考慮し類似したサイズ構成を持つ隣接市町村をグループ化し比較を行った。サイズ小の頻度が、季節では 9、10 月に高く 4－6 月に低く、時刻では日中に高かった。小の頻度が、受傷場所ではキビ畑で高く道で低く、人の活動では通行で低く、受傷部位では手指で高く足・下腿で低かった。また、大の頻度が大腿・頭部の受傷部位で高かった。

症状・治療などについては、全部位とは別に資料が最多の手指受傷について、おもな医療機関別に集計と比較を行った。その結果、ヘビサイズが大の頻度が、吸引・切開・疼痛・出血有り、ならびに入院と機能障害有り

\* 元 沖縄県衛生環境研究所職員